

この調査にご自分のレポート等を利用して欲しくない方は、  
連絡期間内に下記の担当者に連絡をお願いします。

登録番号	20200135	
研究課題名	自然言語処理を応用した、インシデントレポートの新たな分析法の提案	
研究責任者	筑波大学システム情報工学研究科システム情報系 掛谷 英紀 准教授 (当院担当者:筑波大学大学院 博士後期課程2年 山田紀昭)	
研究期間	西暦2019年4月1日～2021年12月31日	
連絡期間	<u>西暦2021年7月31日までに下記連絡先担当者までお申し出ください。</u> この調査へのご自身が記載したレポートの使用をお断りになっても、不利益を受けることは全くありません。例えそれが調査期間中であっても、いつでもお断りいただけます。	
研究の目的 と意義	本研究は、自然言語処理技術を応用し、インシデントレポートの文脈から発生要因、Good work事例 等を分類することである。過去のレポートを分析することにより、将来に向けての教訓を得ることができ、事故の未然防止に貢献できる意義がある。	
内容	研究方法	済生会横浜市東部病院医療安全管理室に報告されたインシデントレポートのデータを、学習および検証データとして用いる。学習データの記述を選別し、PCプログラムにデータを取り込み、データ処理を行い、機械学習をさせる。分類器の分類精度と手分類の結果との整合性を検証する。
	対象者	西暦2019年4月1日～2021年3月31日の間に、済生会横浜市東部病院医療安全管理室に報告されたインシデントレポートのデータ。 * インシデントレポートのデータは、報告者の氏名や患者氏名など個人が特定される情報を取り除いたデータを分析データとして取り扱います。
	利用データ 項目	事象レベル、種別(インシデント、アクシデント)、報告種類(当事者報告、発見者報告、その他)、報告者職種、当事者(報告者本人、同じ職種のスタッフ、他の職種のスタッフ、患者本人、家族・付添、他の患者、不明、その他)、発生日時(年月日、時間、不明)、発生場所、患者区分(入院、外来、不明、該当なし)、患者年齢、患者性別、内容区分、事例の内容、詳細の種類、発生要因、記述報告、事故調査委員会設置の有無
	研究組織	筑波大学と済生会横浜市東部病院の共同研究
	データの 院外提供	あり(筑波大学大学院認知システム研究室に共同研究者である山田紀昭がUSBに保存した電子データを持参し、研究責任者である掛合准教授と共に集計や解析をいたします。)
	研究資金	筑波大学認知システム研究室の研究費(公的資金)
	結果公表	Safety Scienceへ投稿予定
	研究終了 後のデータ	他の研究等に利用する場合は、再度倫理委員会の承認を得て利用します。
	当院 連絡先 担当者	〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1 電話045-576-3000 済生会横浜市東部病院 臨床工学部/係長/山田紀昭/臨床工学技士